

<日商簿記1級工業簿記ミニテスト20>原価差異の期末処理（標準）

<問題>

次の資料にもとづいて、原価差異の会計処理を行い、以下の各問に答えなさい。なお、原価差異はすべて正常なものであり、かつ、比較的多額なものと判断された。ただし、追加配賦して得られた各勘定の期末残高ができるだけ実際原価に一致するように追加配賦すること。

(1)原価標準

直接材料費	@100×4 kg=400 円
加工費	@300×3 h =900 円
製品1個当たりの標準原価	<u>1,300 円</u>

(2)当年度の生産データおよび販売データ

当期投入	150 個	当期完成	100 個
期末仕掛品	50 個 (40%)	期末製品	20 個
当期完成	100 個	当期販売	80 個

(注) 直接材料は工程の始点で投入される。() 内の数値は加工進捗度を示す。なお、期首仕掛品、期首製品はなかった。

(3)当年度の実績データ

- ① 製品の販売価格は@2,000 円である。
- ② 直接材料費は@105 円で700 kgを掛けて購入し、そのうち660 kgを消費しており、価格差異は発生していない。なお、期首材料はなく、棚卸減耗は生じていない。
- ③ 加工費の実際発生額は120,000 円であった。

問1

材料受入価格差異、材料消費量差異、加工費配賦差異を求めなさい。不利差異の場合は△をつけなさい。

問2

追加配賦後の売上原価、期末製品、期末仕掛品、期末材料の金額を求めなさい

<解答>

問 1

材料受入価格差異	
材料消費量差異	
加工費配賦差異	

問 2

売上原価	
期末製品	
期末仕掛品	
期末材料	